

## 県医活動報告

### 大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会 —よりよい男女共同参画を目指して—

日 時：平成26年9月26日(金) 14時～16時

場 所：日本医師会館・大講堂

報告者：常任理事 三倉 剛

挨拶 日本医師会長 横倉 義武  
(代読：日本医師会副会長 今村 聡)  
日本医学会長 高久 史磨

#### 議 事

##### 1. 日本医師会の女性医師支援に関する取り組みについて (10分)

日本医師会常任理事 笠井 英夫

##### 2. 事例発表 (発表各15分×4, 報告10分)

###### ①長崎大学の取り組み

長崎大学男女共同参画推進センター センター長

長崎大学病院メディカルワークライフバランスセンター センター長

副学長/教授 伊東 昌子 先生

###### ②奈良県立医科大学の取り組み

奈良県立医科大学微生物感染症学 講師

奈良県立医科大学女性研究者支援センター

コーディネーター 水野 文子 先生

###### ③東京医科大学の取り組み

東京医科大学医師・学生・研究者支援センター長

教授 大久保ゆかり 先生

###### ④『全国医学部におけるワークライフバランスの取り組み

～小児科学会主催アンケート調査より～』

日本小児科学会男女共同参画委員会委員

福與なおみ 先生

・ (報告)「女性医師支援に関するアンケート調査」(大学)について

日本医師会女性医師支援委員会委員

高橋 克子 先生

##### 3. 意見交換

昨年より始まった会である。

日本医師会の戦略としては、女性医師問題（女性医師の増加，同医師のキャリア形成問題，休職・離職女性医師問題）の解決はもちろん，日本医師会の組織率向上において，その問題は勤務医師問題（女性医師問題とオーバーラップしている）と並ぶ2大問題である。そこで，継続的に同問題に取り組むには，既卒医師に対して支援すると同時に，

底辺(女子中高生, 女子医学生, 女子研修医)にも働きかけをせねばならないということで, 医学部の担当者, あるいは横のつながりとして, 医学会の担当者とも連絡を取り合う必要があるとして開催されている。

日本医師会の女性医師支援の基本政策は『女性医師支援センター事業』である。そしてその中核に女性医師バンクがある。平成19年1月に開設された同バンク7年間で約400件の就業実績があったとの報告。

事例発表は, 大学3題, 学会1題である。

大学, 最初の事例は長崎大学である。短時間正社員制の就業パターンはベースを週16時間働けばいいこととし, 次のステップとして週30時間(日に7時間以内, 8:45~15:45又は10:00~17:00), さらに週38時間45分以内(日に7時間45分以内, 8:45~17:30, 週4日)として育児と仕事の両立をはかる。その他キャリアコンサルティング, 復職&リフレッシュトレーニング, セミナー, 講演会等を行っている。育児支援, 17:30~20:30のイブニングシッター制, 山口県医師会を参考にした保育サポーター制度さらに医学生に対するキャリア教育を行っている。また女子中高生にたいするリケジョセミナーも行っている。

潜在女性医師把握調査では, 同窓会, 医局での情報およびそれで所在把握した女性医師さらに医師会名簿からの把握を加えて対象者968名に(うち429名がメールアドレス登録者)アンケート調査を行い, さらにキャリア相談に応じることを行っている。

2番目に奈良県立医科大学より, 女性医師のキャリアアップは, トップを引き上げるために指導的立場・管理的立場の上位職種の女性医師を増やすことを目標にやっているが, 難しい。とくに論文以外の評価(特に教育関係)で上位職種を任命することの難しさに直面している。

3番目の東京医科大学も, 上位職種の数を増やすこと, 男性医師の育児休暇所得率アップを目指すなかなか難しいという。

小児科学会もアンケート調査を行ったが, 各大学医局で取り組みに差があるという。WLBの講義実習を行っているところは少なく, 意識は低い。

外科系女性医師からも, 質問・意見があった。女性呼吸器外科医からは, 特に外科系に対してはどのような配慮をしているか?, また女性頭頸部外科だった先生からは, 短時間正社員制とはいっても, 外科系は朝早く患者を見て手術するので, 朝7時に出勤できる保育体制, シフト制を工夫する必要があるといった意見があった。

奈良からは看護学科どうよう, 医学科でもパワハラ, アカハラなどの相談が多く寄せられる, 内部のしがらみもあって, 外部のNPOなどに対応を任すのも一手であるということであった。

報告者：大分県医師会男女共同参画委員会委員 縄田 智子

昨年に続き第2回目としての「大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会—よりよい男女共同参画を目指して—」が、日本全国の医師会・大学の女性医師支援担当者（約200名）、日本医学会分科会（69学会）の参加により開催されました。大分県医師会からは、男女共同参画委員会・三倉剛先生、小田真理先生、大分大学・縄田智子の3名が出席しました。

まず「1. 日本医師会の女性医師支援に関する取り組みについて」、平成26年度女性医師支援センター事業として12事業計画について説明がありました。昨年の10事業に「学会総会等へのブース出展」「女性医師の生涯を通してのキャリア形成支援」の2つが加えられていました。

続いて「2. 事例発表」として、大学医学部における男女共同参画推進の取り組みについて、長崎大学、奈良県立医科大学、東京医科大学より紹介されました。3大学とも共通していたのは、「育児支援・復職支援」「上位職獲得へのキャリア支援」「意識啓蒙・広報」「医学生教育」が主な活動とされており、大分大学における取り組みと同様でした。しかし、3大学とも推進センターとして組織的に活動しており、また医師会や行政及び地域社会とも連携が取られている点など、大分大学として参考になるところも多数ありました。また、3大学とも「男女全体のワーク・ライフ・バランス（WLB）実現が目標」であることを前面に出してあったことも印象的でした。

次に、女性医師支援に関するアンケート調査として、小児科学会が全国大学を対象に行った結果と、日本医師会が全国大学及び学会を対象に行った結果について、それぞれ報告がありました。いずれからも女性医師支援体制の少しずつ整いつつある現状が報告されました。しかしその一方で、大学上位職（教授・准教授・講師）や学会理事における女性医師の割合が少ないこと、依然として女性医師支援の取り組みが行われていない大学があること、など問題点が多数あることも浮き彫りにされました。医師のWLB実現にはマンパワー充足が前提であり、そのための医学生時代からの継続した啓蒙が必要、更に支援の在り方にも多様性が求められる点、などが指摘されました。

最後に「3. 意見交換」として、フロアから復職やキャリア継続のための働きかけについて具体的な質問があり、パネリストからの、個々人の背景を確認しながらface to faceのアドバイスが必要、との意見が印象的でした。

今回の連絡会に出席して、「男女共同参画推進」の目的は①女性医師が、医師としての成長期に出産育児を経てもキャリアを継続するために、「女性医師個々人の意識」「周囲の理解と協力」「社会的サポート」が必要不可欠であること、②女性医師も管理者として社会的責任を果たすためにキャリア支援と環境整備が重要であること、③男女を問わずWLBを保ち「燃え尽き症候群」を回避して医師としてのキャリアを継続できるようにすること、と改めて認識しました。同時に、依然として周囲の理解協力が得られにくいのも現実であり、現時点ではマンパワー充足のために、個人、行政、教育など多方面への地道な取り組みを、全員で行っていくことが重要であると痛感しました。